

国立民族学博物館研究報告 vol.20-3; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	20
号	3
発行年	1996-02-06
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009189

1995—20_卷3_号

国立民族学博物館 研究報告



スプリンクラー事故で冠水した衣類等に施した緊急保存処置に関する報告
——阪神・淡路大震災による被災資料の例—— 園田直子

中国辺境諸民族の文化と居住地

——エーバーハルト説の紹介と評価(そのII. 南方辺境諸民族)—— 大林太良

明清期の中国広西東南部における中流宗族の動向

——平南県胡以暎一族の族譜分析を中心に—— 菊池秀明

ポー・カレン語諸方言の音韻体系

——西部方言1種と東部方言2種—— 加藤昌彦



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

20 卷 3 号

1995 年

目 次

スプリンクラー事故で冠水した衣類等に施した緊急保存処置に関する報告 ——阪神・淡路大震災による被災資料の例——	園田直子	429
中国辺境諸民族の文化と居住地 ——エーバーハルト説の紹介と評価（そのⅡ．南方辺境諸民族）——	大林太良	455
明清期の中国広西東南部における中流宗族の動向 ——平南県胡以眈一族の族譜分析を中心に——	菊池秀明	501
ポー・カレン語諸方言の音韻体系 ——西部方言 1 種と東部方言 2 種——	加藤昌彦	547
彙 報		599
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		604
国立民族学博物館研究報告執筆要領		605

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 20 No. 3

1995

- SONODA, Naoko Emergency Treatment of Textiles Submerged by a Sprinkler Accident: A Case of Damage Caused by the Great Hanshin Earthquake..... 429
- OBAYASHI, Taryo Ethnic Groups in Border Regions of China in Historical Times: An Appraisal of "Kultur und Siedlung der Randvölker Chinas" by Wolfram Eberhard. Part II: Ethnic Groups in Southern Regions 455
- KIKUCHI, Hideaki The Trend of Middle Class Lineages in the South-East Area of Guangxi Province China during the Ming and Qing Dynasty: An Analysis of the Zupu Material about the Relatives of Hu Yi Huang Collected in Pingnan Prefecture 501
- KATO, Atsuhiko The Phonological Systems of One Western and Two Eastern Dialects of Pwo Karen 547

彙 報 (平成7年7月～平成7年9月)

人事異動
(教育職)

(採 用)

9月1日 地域研究企画交流センター助教
授 押川 文子
第四研究部助手
MATTHEWS, Peter Joseph

(昇 任)

7月16日 第一研究部教授 長野 泰彦
(第五研究部助教授)
第一研究部助教授 近藤 雅樹
(第一研究部助手)

(転 任)

8月1日 第一研究部助手 池谷 和信
(北海道大学助手)
9月15日 地域研究企画交流センター助手
村上 勇介
(外務事務官)

(外国人客員研究部門)
[任期満了]

9月30日 第五研究部教授
JANHUNEN, Juha Antero
(フィンランド, ヘルシンキ大
学北アジア学科教授)
<任期 6.10. 1~7. 9.30>

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
庄司 博史	助教授 (第三研究部)	7. 7.15	7. 8.26	フィンランド, ロシア, エストニア
友枝 啓泰	教授 (第四研究部)	7. 7.17	7. 8.23	ペルー
長野 泰彦	教授 (第一研究部)	7. 7.18	7. 8. 4	ネパール, インド
小山 修三	教授 (第四研究部)	7. 7.20	7. 9.22	カナダ, アメリカ合衆国
立川 武藏	教授 (第二研究部)	7. 7.22	7. 8.14	インド
山本 紀夫	教授 (第五研究部)	7. 7.23	7. 8. 8	ネパール
三島 禎子	助手 (第三研究部)	7. 7.24	7.10.27	フランス, セネガル
山田 陸男	教授 (地域研)	7. 7.25	7. 8.11	ブラジル, アルゼンチン, ペルー
秋道 智彌	教授 (第一研究部)	7. 7.26	7. 9.15	インドネシア
崎山 理	教授 (第五研究部)	7. 7.26	7. 9.15	インドネシア
杉村 棟	教授 (第二研究部)	7. 7.27	7. 8. 9	ウズベキスタン, カザフスタン, キルギスタン, ロシア
栗田 靖之	教授 (第二研究部)	7. 7.29	7. 8.11	ブータン
栗本 英世	助教授 (第三研究部)	7. 7.30	7.10. 1	スーダン, ケニア, エチオピア
朝倉 敏夫	助教授 (第一研究部)	7. 8. 1	7. 9. 5	中華人民共和国, 大韓民国
中牧 弘允	教授 (第一研究部)	7. 8. 2	7. 9.30	ブラジル
小長谷有紀	助教授 (第一研究部)	7. 8. 2	7. 8.31	モンゴル, ロシア
塚田 誠之	助教授 (第二研究部)	7. 8. 2	7. 8.20	中華人民共和国
松原 正毅	教授 (地域研)	7. 8. 2	7. 8.31	モンゴル, ロシア
藤井 知昭	教授 (第二研究部)	7. 8. 4	7. 8.21	ベトナム
福岡 正太	助手 (第二研究部)	7. 8. 4	7. 8.29	ベトナム, ラオス
杉本 良男	助教授 (第三研究部)	7. 8. 5	7. 9.23	インド
森田 恒之	教授 (第五研究部)	7. 8. 6	7. 8. 9	大韓民国

白杵 陽	助教授(地域研)	7. 8. 7	7. 9.18	スペイン, モロッコ, イスラエル, トルコ
山本 紀夫	教授(第五研究部)	7. 8. 9	7. 8.24	ペルー
杉村 棟	教授(第二研究部)	7. 8.10	7. 8.31	ウズベキスタン, カザフスタン, キルギルタン, ロシア
横山 廣子	助教授(第二研究部)	7. 8.16	7. 9.14	中華人民共和国
佐藤 浩司	助手(第四研究部)	7. 8.22	7.10. 4	タイ, ベトナム
長野 泰彦	教授(第一研究部)	7. 8.23	7. 8.30	中華人民共和国
立川 武藏	教授(第二研究部)	7. 8.26	7.10. 1	ネパール, インド
田村 克己	助教授(第二研究部)	7. 8.27	7. 9.14	ベトナム
杉島 敬志	助教授(第二研究部)	7. 9. 1	7.10.29	インドネシア
上杉 富之	助手(第二研究部)	7. 9. 2	7. 9.26	タイ, フィリピン
杉村 棟	教授(第二研究部)	7. 9. 3	7. 9.10	イラン
吉田 集而	教授(地域研)	7. 9. 5	7. 9.26	ニューカレドニア, ニュージーランド, フィジー, オーストラリア, グアム
小長谷有紀	助教授(第一研究部)	7. 9. 6	7. 9.15	モンゴル, 中華人民共和国
近藤 雅樹	助教授(第一研究部)	7. 9.11	7. 9.25	オーストリア, ドイツ, オランダ
石森 秀三	助教授(第四研究部)	7. 9.12	7. 9.24	モルディブ, シンガポール
南 真木人	助手(第三研究部)	7. 9.12	7.10.19	ネパール, インド
佐々木史郎	助教授(第四研究部)	7. 9.15	7. 9.29	ロシア
林 勲男	助手(第四研究部)	7. 9.17	7.10. 3	オーストラリア
江口 一久	教授(第三研究部)	7. 9.20	7. 9.30	トルコ
朝倉 敏夫	助教授(第一研究部)	7. 9.21	7. 9.28	大韓民国
山田 陸男	教授(地域研)	7. 9.25	7.10. 2	アメリカ合衆国

来館者抄

7月10日 韓国文化関係研修団 印 炳善(大韓民国, 薬・草生活博物館長), 金 永 模(大田ハンバツ教育博物館運営課長), 朱 仁 澤(光州広域市立民俗博物館学芸研究室長), 金 成 煥(京畿道郷土資料室学芸研究師), 柳 龍 桓(大田広域市郷土資料室学芸研究師), 劉 鳳 熙(忠州博物館学芸研究師), 崔 判 鎮(文体部行政事務官), 金 國 銀(文体部行政主査補), 郭 東 煥(慶州韓国巫俗博物館長), 洪 英 姬(慶州韓国巫俗博物館学芸

研究員), 李 庸 燮(太平洋博物館副館長), 朴 鍾 玉(太平洋博物館次長), 朴 忠 烈(世宗文化財団事務局監査), 全 俊 曄(省谷美術文化財団学芸研究室長), 尹 烈 洙(果川美術文化財団学芸研究室長), 金 洪 年(トゥル画廊館長)

7月18日 ARNOLD, Jean Michel (フランス, フランス科学研究庁 FEMIS 部長), DEMEULE, Annick (フランス科学研究庁展示担当), SABOURET, Jean-Francois (フランス科学研究庁日本

- 支部長)
- 内林 達夫 (日本放送協会大阪放送局長)
- 7月22日 Mom Kob Kaew Abhakara (タイ, タイ王国前摂政王妃殿下) 一行
- 7月25日 (社) 土木学会施設拡充委員会アーカイブ部会 佐藤 馨一 (北海道大学教授), 松浦 茂樹 (ダム技術センター首席研究員), 知野 泰明 (日本大学), 為国 孝敏 (土木学会事務局)
- 7月28日 KACHA-ANANDA, Chob (タイ, タイ国山地民族研究所・副所長), 新谷 忠彦 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授)
- 7月29日 CHEE, Cholkon (大韓民国, 韓国照明電気設備学会会長), KIM, Hoon (韓国照明電気設備学会), YEO, Inseon (韓国照明電気設備学会), KIM, Hongbum (韓国照明電気設備学会)
- 8月6日 MOON, Won Shik (大韓民国, 韓国外国語大学), WON, Kyoung Yeon (韓国外国語大学), HONG, Sun Bock (梨花女子大学), KIM, Na Young (梨花女子大学)
- 8月7日 アウンチャイ (ミャンマー, パガン博物館副館長), ミョーニョン (ミャンマー考古局修復研究員), モーチョーチャー (ミャンマー考古局修復研究員)
- 8月22日 鈴木 治夫 (国際協力事業団大阪国際センター所長)
- 8月25日 高 炳 佑 (大韓民国, 韓国「冬期ユニバシールド大会組織委員会」委員長), 崔 忠 宜 (韓国「冬期ユニバシールド大会組織委員会」行事本部長), 鄭 成 玉 (駐大阪大韓民国総領事館領事)
- 熊谷 敏 (総務庁行政管理局管理官), 諸江 邦利 (厚生省大臣官房人事課人事調査官), 木村 政之 (厚生省保健医療局国立病院部運営企画課長), 信友 浩一 (国立循環器病センター運営部長), 永井義之助 (国立循環器病センター運営部次長), 西村 良廣 (国立循環器病センター庶務課課長補佐)
- 8月29日 中国少数民族青年幹部代表団 葛 忠 興 (中華人民共和国, 国家民族事務委員会機関共産主義青年団委員会書記), 馬 徳 良 (青海省循化縣縣長), 鐘 自如 (甘肅省肅南県人民銀行課長), 蘭 栄 生 (福建省福安市資岐鎮副鎮長), 朱 善 (吉林省汪清県工商銀行副科長), 王 旭 英 (四川省汶川県共産主義青年団委員会書記), 石 徳 昌 (海南省保亭黎族苗族自治州保亭中学校校長), 刀 玉 琴 (雲南省湖西県交通警察大隊副大隊長)
- 9月5日 NGUYEN, Dinh Thu (ベトナム, ハノイ国際関係研究所副所長)
- 9月8日 中国作家代表团 団長 彭 荊

風（中華人民共和国，中国作家協会理事），霍 達（中国人民政治協商会議全国委員会委員），賀 鴻 鈞（陝西省作家協会主席団委員），李 錦 琦（中国作家協会対外連絡部）

哲也（ダイキン工業株式会社・国際営業本部営業企画部課長），林 尚志（南山大学経済学部）

9月14日 AL-QUAYID, Ibrahim Hamed (サウジアラビア, キング・サウード大学言語・翻訳学院副院長)

9月25日 APEC 国際交流フォーラム一行 BELLAMY, Annette Ellen (オーストラリア, 西オーストラリア商工会議所), LARZABAL, Chantal Geraldine Lorraine Signorio (チリ, ビジネス情報センター), 林 江 東 (中華人民共和国, 中国遠大発展総公司総合計画部長), Kusaeni (インドネシア, インドネシア・日本経営者協会事務局長), KIM, Gil Soo (大韓民国, 外務省地域政策部部長代理), LEONG, Mun Yoon (マレーシア, 日本研究センター所長), CALVILLO, Sylvia Adriana Pinal (メキシコ, ラテンアメリカ所長), WILLIAMS, Soiat (バブアニューギニア, バブアニューギニア人事局), CAMBOA, Herman T. (フィリピン, データーセンターデザイン・コーポレーション), ONG, Willam S. K. (シンガポール, リンデン・インダストリー), YAO, Yen Hung (台湾, ICI タイワン・コーポレーション), KARNCHANACHARI, Phornsake (タイ, National Thai Co. LTD.), 福永 哲也 (三和総合研究所・国際本部副主任研究員), 福田

9月26日 上海地区大学情報教育担当者訪日研修団一行 団長 王 邦 佐 (中華人民共和国, 上海師範大学長), 陸 紅 玉 (上海師範大学国際交流処日本科長), 蔡 瑩 (上海師範大学師資弁公室副主任), 錢 銀 榮 (上海師範大学計算機系助教授), 盧 正 言 (上海師範大学図書館研究員), 劉 連 珍 (上海師範大学教育科学中心資料室主任), 石 振 銘 (上海師範大学資料館長), 張 世 永 (復旦大学計算機系教授), 方 渡 飛 (復旦大学物理学教授), 顧 耀 芳 (華東師範大学国際商学院情報学系情報技術教育研究室副主任), 張 菁 華 (華東師範大学計算機センターシステム室主任), 陳 章 進 (上海大学計算機センターネットワーク研究室副主任), 王 錫 林 (上海大学教務処長), 榮 震 華 (上海交通大学計算機系教授), 黃 新 昌 (上海交通大学国際交流処副研究員), 武政 尹士 (京都教育大学教授), 上田 正人 (京都教育大学庶務課専門職員)

9月28日 蔡 正 鶴 (中華人民共和国, 上海図書館副館長), 孫 秉 良 (上海図書館副館長), 鮑 延 明 (上海図書館司書), 柴 田 正美 (日本図書館研究会理事)

彙 報

9月29日 韓国画伯日本視察団一行
JUNG, Woon Kyung (大韓民国,
中央日報), KIM, Sun Hwan (文
化日報), LEE, Hong Woo (東
亜日報), PARK, Ho Sung (世
界日報), SHIN, Hyun Joon (韓
国日報), CHO, Tae Ho (中央日
報), AN, Baek Ryong (韓国經
済新聞), KIM, Song Beon (毎
日経済新聞), CHO, Gi Yung (ソ
ウル新聞), CHO, Dae Hyun (国
民日報), KIM, Yong Duk (釜山
毎日新聞), KIM, Seon Hak (慶
南日報), SHIM, Hin Seob (大田
日報), KIM, Jong Doo (光州日
報), YOON, Yung Ok (前ソウ
ル新聞), BAEK, In Soo (東亜日
報), Yoo, Gi Song (世界日報),
AN, Joong Gyu (朝鮮日報), 益
田靖雄 (日韓企画)

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認めた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスマ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当っては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1

国立民族学博物館内

国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る。図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。

[柳田 1942: 67-69]
[Leach 1961: 123]
[柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123]

ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。

[柳田 1942a: 20-22] [柳田 1942b: 10]
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。

(1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。

(2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。

欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本語の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』13 (4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14 (4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143。

Leach, Edmund

1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse. In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language, The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

1966 『文明をもった生物』日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 20卷3号

〔監 修〕

佐々木 高 明

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

秋 道 智 彌

江 口 一 久

熊 倉 功 夫

近 藤 雅 樹

佐 藤 浩 司

清 水 昭 俊

庄 司 博 史

杉 島 敬 志

田 邊 繁 治

長 野 泰 彦

森 明 子

吉 田 集 而

平成8年2月6日 発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 20卷3号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06(876)2151(代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075(441)3155(代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.20 no.3
1995

- SONODA, Naoko** **Emergency Treatment of Textiles Submerged by a Sprinkler Accident: A Case of Damage Caused by the Great Hanshin Earthquake**
- OBAYASHI, Taryo** **Ethnic Groups in Border Regions of China in Historical Times: An Appraisal of "Kultur und Siedlung der Randvölker Chinas" by Wolfram Eberhard. Part I: Ethnic Groups in Southern Regions**
- KIKUCHI, Hideaki** **The Trend of Middle Class Lineages in the South-East Area of Guangxi Province China during the Ming and Qing Dynasty: An Analysis of the Zupu Material about the Relatives of Hu Yi Huang Collected in Pingnan Prefecture**
- KATO, Atsuhiko** **The Phonological Systems of One Western and Two Eastern Dialects of Pwo Karen**



**National Museum
of Ethnology**

Senni Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06 876-2151

ISSN 0385-180X